

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子 南青山保育園
施設所在地	東京都港区南青山4-1-6 セブン南青山ビル1・2F
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食育

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園は、給食や食育に力を入れており、園児たちは日々の給食や食育を楽しみにしています。保護者の関心も高く、栄養士が園児、保護者、保育士と距離が近いことも魅力と感じている為、もっと保育に食育が絡んでいったらと考えています。

2. 活動スケジュール

【栄養士と5歳児で子ども会議】

栄養士と5歳児で子ども会議を開き、すくわくプログラムの探究に限らず年間の食育計画を立てる。

【専門家のアドバイスをもとに栽培計画を立てる】

9月 子どもたちがプランターに土を入れたり準備を行い、苗（いちご・白菜）と種芋を植える。

10月 専門家（栽培サポート）が生育確認のため来園。それぞれの植物にあった育て方と水やりの頻度などを子どもが学ぶ。

【収穫見学・収穫体験・クッキング】

10月 いも畑と中継を結び農家さんと交流し、収穫を見学。収穫されたつる付きさつまいもが園に届き、土に埋めて収穫体験をする。

12月 乾燥させたさつまいもを使って5歳児がクッキングを行いスイートポテト作り。作ったお菓子は全クラスにふるまう。

【専門家と栽培・観察】

12月 専門家（栽培サポート）が来園。そら豆の種植え、じゃがいも収穫。

収穫したいもや葉を観察しライトテーブルで葉脈を見たり絵を描いたりする、収穫した2色のじゃがいもの食べ比べ。アドバイスをもらい水の量や肥料についてなど工夫しながら世話を続ける。

【すくわく新聞を作り報告】

12月 今まで育ててきた野菜について、すくわく新聞を作り廊下に貼りだし、保護者や他クラスの保育士や子どもたちに見てもらう

【ポップコーンづくり】

1月 園の年間食育計画で決められていたポップコーンを作る。子ども会議で何味のポップコーンにするか等話し合いをしてまとめ、ポップコーン作りのクッキングを行う。

【栽培の継続】

1月 ホワイトアスパラ、白菜、そら豆、いちごについては現在栽培継続中。全クラスが加わり、毎日交代でお世話をしている。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

栽培サポート(苗、種)

食育キット(つる付きさつまいも、大豆、ホワイトアスパラ、ポップコーン)

ライトテーブル

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【栄養士と5歳児で子ども会議】

今年度は、栄養士と5歳児(時に4歳児も)で子ども会議を開き、食育の内容ややりたいことを話したことでさらに意欲的に参加する様子が見られている。

【専門家のアドバイスをもとに栽培計画を立てる】

栽培活動を始める時期以降で年内に収穫できそうなもの、お世話を継続して来年度に収穫になるものなど、継続して体験ができるように栽培するものを決定。また、今まで園で栽培したことがあるものを伝えたり、園の狭い空間や室内でもできる物を提案してもらったりしながら計画を立てた。

【収穫見学・収穫体験・クッキング】

いも畑と中継を結び農家さんとの交流をし、収穫を見学することでどんなところでさつまいもができていのか、葉っぱやいもづるの様子を知ったり、畑の大きさを感じていた。

その後、収穫したつる付きさつまいもが実際に届き、園で収穫体験をしたことでいもの大きさや重さを感じていた。収穫後はいもを乾燥させ、さつまいもを使って5歳児がクッキングを行い全クラスにふるまった。普段は自分たちが食べる分を作っているが、他の友だちや他のクラスの子どもたちのために作れることを喜んでた。おやつ時間に、5歳児が作ってくれたことを知り、「お兄さん、お姉さんがつくってくれて嬉しい」「〇〇ちゃんが作ったの上手」「すごい」という声やおいしいという感想がたくさん聞かれた。また4.5歳児は合同クラスの為、午睡後に4歳児が5歳児に「作ってくれてありがとう」と伝えていた。

【専門家と栽培・観察】

12月になり、栽培サポートのときに毎日子どもたちがお世話している野菜を見てもらいアドバイスをもらったり質問に答えてもらった。寒くなってきたことで葉っぱが元気をなくしていたり、いちごのつるが隣まで伸びていることなど心配する子どもたちだったが、理由を聞いたり、どのくらい水や栄養を与えたら良いかなど具体的に教えてもらったことで安心し、その後のお世話に活かしていた。新たな種植えをし、季節によってできる野菜が違うことを教えてもらった。9月から育てたじゃがいもを収穫し、いもや葉を観察したりライトテーブルに置いてみたりし、葉脈を見る子、表面や色に注目する子など様々だった。収穫した2色のじゃがいもを栄養士に調理してもらい食べ比べをしたことで、自分たちで育てて収穫した喜びとともに色や味の違いなどにも気づいていた。

【すくわく新聞を作り報告】

観察をしたことで絵を描いたり文字で書いたりしてみんなに知らせたいということになり、すくわく新聞を作り廊下に貼りだし、保護者や他クラスの保育士、子どもたちに見てもらおうようにした。

【ポップコーンづくり】

食育計画で入れていたポップコーン作りを行う。

乾燥とうもろこしが届き、いつ行こうかと、何味のポップコーンを作るかを子ども会議で決定。

クッキングの中でも特に楽しみにする様子があり、家庭でも話しているという旨を保護者から向うことが多かった。コーンをはじめてポップコーンになる様子を興味深く観察し、4.5歳児で食べた。とても好評で、もっと食べたかったという声が多く聞かれた。

【栽培の継続】

収穫時期が異なるものを植えて、5歳児は残りの栽培や収穫を下の学年に引き継いでいく。現在も4.5歳児中心に、乳児クラスを含め順番に水やり等のお世話に参加している。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

講師とのふれあい、実際に土に触る体験、水やり、収穫と観察など、それぞれの子どもたちが興味を示すポイントが様々で興味深かった。自分の作業が終わるとすぐに友だちとふざけあう姿もあれば他児の行っている様子もじっと観察している姿も見られた。

日々の水やりも当番制で数人ずつ栄養士を呼びに来て一緒に活動している。

前回講師に聞いたことを良く覚えていたり、野菜の成長について違いをよく観察して保育者に伝えたり、絵で記録する子も、聞いたことを文字でメモする子もいた。

土や肥料のにおいを『くさい』と言ったり、〇〇みたいと例えるなど子どもたち同士で盛り上がっていた。

プランターを置ける場所が狭く、作業する人数に限られる為、『見えない』『はやく変わって』などケンカになったり、順番でもめたりということが多かったが、順番に全員できるということが分かり、だんだんと自分たちで話して待つ姿も見られた。

保育者は子どもたちが自ら意見を言ったり考えたりできるよう、正解を言うなどの先回りをせず必要な時に手助けできるように関わっている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

取り組み前から食育やクッキング、栽培に興味を持つ様子はあったが、保育者が決めた内容や、保育者主導で活動を行うことが多かった。

今年度は食育活動について、子どもたちが意見を言ったり内容を考えたりして進めてきた。

すくわくの取り組みが始まり、今までの栽培と違い、ファームの講師の方が、栽培サポートとして来てくれることで、日々の水やりのときに感じたことや疑問を次の時に質問したり話したりする姿が見られた。自分たちでお世話しているという実感もある為、ホワイトアスパラ栽培など袋をかけて暗くする際も、「おやすみ、また今度ね」と親しみを持っている。

普段からクッキングだと少し苦手なものでも食べたり、いつも以上においしいと感じている姿が多いが、自分たちが育ててきた野菜を使ってのクッキングはさらに楽しみと食欲が増していた。

ビルの下で一角でゴミ捨て場をプランターも2つしか置かず道路に面しており、ゴミがプランターに入れられていてショックを受ける様子もあったことで看板や立札を作るという話にも子どもたちの中で発展していった。

今回栽培したものは成長速度や収穫時期が異なるものを敢えて選ぶことで一気に収穫して終わりではなく、違いを感じたり、同じ時期に植えたものでも収穫できる物とお世話を継続するものもあり、次々に学んでいる様子が見られた。栽培のお世話については、4.5歳児と一緒に、全クラス交代で水やりをしたり観察して、栽培を継続している。

収穫量が少ないものは自分たちだけで食べたが、全クラスに作ってあげて振舞うことも喜んでいた為、どのくらいの苗や種で作るか、また、どんな種類が良いかなどを4歳児に引き継いでいきたい。

ビルインでテラスなどもない環境ということもあり、自分たちだけで考えると活動を制限していたところもあったが、今回、栽培サポートの方にいろいろと教えていただいた取り組みを通じて、工夫したらもっとできることがあるのではないかとスタッフ同士で話すなど希望を持っていることは、もう一つの大きな収穫となった。